

報 告

第28回医学情報サービス研究大会 (MIS28) 参加記

佐藤 道子

2011年7月23日とても天気の良い朝、滋賀に向かう電車に乗り MIS28 の会場であるピアザ淡海に向かいました。受付を済ませロビーを見渡すと、大会ロゴの入った T シャツを着たスタッフ、大会記念グッズとして販売されていた京うちわや手ぬぐいが目に入り、お祭りにきたような楽しい気持ちになりました。当協議会スタッフもロビーのど真ん中に売り場スペースを確保し、いち早く出版物とオリジナルグッズを販売していました。朝から自分の発表のことがばかり考えてそわそわしていましたが、見知った顔に出会うことでようやく気持ちが落ち着いてきました。

研究発表が始まるとホールの広さと人の多さに圧倒され、前に立つことを考えただけでまた緊張してしまいましたが、壇上で発表している人の話し方や要点のまとめ方から学ぶことが多く、一時も目を離すことができませんでした。

それぞれの発表が終わると質疑応答がありました。活発に意見が飛び交う中、質問を考える余裕がなく日頃の勉強不足を大いに反省しました。特に専門性の高い発表に対し「聞き手にわかりやすく説明する工夫が必要ではないか」というご意見が印象に残りました。限られた時間の中で研究発表をする方に対し、聞き手である私もわからないことをそのままにせず、質問をして確かめることが参加者としての役割であっ

たのではないかと思いました。

一般演題の一つとして近畿病院図書室協議会のホームページを紹介する時間をいただきました。リニューアルした内容を紹介するという簡単なものでしたが、いよいよ自分の順番がきたと思ったらいつの間にか終わっていたという緊張の10分間でした。

他の演題はテーマを立てて研究し、その調査過程を発表するという内容でした。それらを聞いていると、日常業務の中で疑問に思うことを掘り下げ明らかにしようとすることは司書としての役割であり、与えられた使命であると思いました。些細なことであっても何となくこうだろうというあいまいな知識で自分を納得させるのではなく、仮説を立て検証していくという積み重ねが司書としての専門性を高めていくのだと思うと、日々の仕事もおろそかにしてはならないと感じました。

今回参加したことで、ホームページの運営に携わるということをもっといろいろな角度から捉えて楽しむことができるのだというヒントをいただくことができました。会場からみえる琵琶湖が目の前に大きく広がり、眩しいくらいにきらきらと輝いていたことが今年の夏の良い思い出です。みなさんも機会があればぜひ壇上に立ってみてください。新しい発見がきっと見つかります。